



# むぎの郷

January 2014

つうしん

発行/麦の郷情報管理委員会  
〒640-8301 和歌山市岩橋643  
TEL(073)474-2466 FAX(073)473-0430  
http://www7.ocn.ne.jp/~ichibaku/

“麦の郷とは” 住民のニーズから生み出され、  
住民の手によって育てられる

ソーシャルファームピネル/くろしお作業所/くろしお作業所分場/  
麦の郷訪問看護ステーション/居住福祉事業所/はぐるま共同作業所  
/はぐるま共同作業所 和の杜/はぐるま共同作業所 ラ・テール/  
障害者就業・生活支援センター「つれもて」/ホームヘルプ麦の郷/  
麦の郷 和歌山生活支援センター/けいじん舎/麦の郷印刷/麦の郷  
紀の川・岩出生活支援センター/ハートフルハウス 創/むぎピース  
/障害児者サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/  
こじか親子教室/麦の郷高齢者地域生活支援センター/事務所  
麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

迎春

「むぎの郷」

くろしお作業所  
「なかまの書初め」



高齢者支援センター  
「もちつき」 1.9(木)



はぐるま共同作業所 結い  
「初詣」 1.6(月)



和歌山生活支援センター  
「新年恒例の鍋パーティ」

## 私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。





# 新しい年を 迎えるにあたって



社会福祉法人  
一麦会・麦の郷  
理事長 田中 秀樹

麦の郷が無認可だったのが共同作業所から38年、また年をひとつ重ねていきます。この間、言葉に言い尽くせないほどのご支援をいただきました。これまでの皆さまのご支援、ご恩に対して心よりお礼申し上げます。

先日、東京での集会で、「障害者・児の親が地域をつくる主体者として立ち上げる」という分科会で、親が障害を持つ子どものために地域の人たちとの協同の力でまちづくりを進めている報告がありました。「私たちの子どもたちはそれでいいの?」と問いかけ、「いやだ」「でも他に何とどうするがわからない」「ないなら作るう!」「いついつくるの?」「今でしょ!」と事業所の開設を準備しています。それは目の前の子どもたちが直面する問題を自らの手で、市民との協同でつくりあげようとしています。そして「彼らの居場所」を「かれらの一生」としてトータルに切れ目なく、そして彼らだけでな

く、やがて誰もが住みやすいまちづくりへと構想を広げていきます。

小さな共同作業所が生まれ、障害をもつ仲間が通い、働くこと、生活すること、小さいときから高齢になるまでとその支援する団体や制度がずいぶん進んできたかのようになっています。しかし、親の思いと願いは40年前と少しも変わってあらず、東京で、大都会でも情報が届いていなく、麦の郷のはじめの頃と大きく変わっていないことに愕然としました。

制度は「猫の目」のように変わり、障害をもつことが重荷のように「自助」「共助」が強く叫ばれ、「公助」は後退し、「権利」という言葉が消えてきています。

生活保護基準の10%切り下げ、社会保障の後退など障害をもつ人たちへの影響が大きく、消費税の増税が追い打ちをかけ一層厳しいものになっていきます。

そういう厳しい中でも立ち止まることはできません。障害者本人、親たちの主体的な活動の広がりやNPO



## 麦の郷の年男・年女 今年の抱負

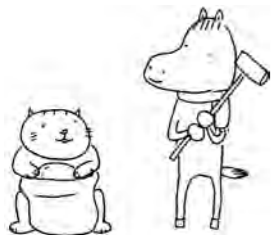


勢田 博昭  
くろしお作業所  
西畑さん・岡本さん・稗田さん

平成26年に、西畑さん・岡本さん・稗田さんと私の4人が、還暦をむかえます。

みんな、身体にハンデをかかえながらも、自分のできる範囲でがんばっています。仲間や職員と和気あいあい仕事ができるので、とても楽しいです。

これからはくろしおの仕事ががんばっていきたくて思います。やさしくて心温かい職員に囲まれて、楽しい場所になっています。



くろしお作業所  
池尻 佳奈

私は昨年の9月24日からくろしお作業所で働くことになりました。

まだ数か月しか働いていないですが、とても楽しく、刺激をもらいながら過ごさせてもらっています。

今まで、介護・福祉の仕事の色々させてもらってきましたが、障害者福祉はとても未熟でなにもかもが新しく、日々勉強させてもらっています。

今年の抱負：ということなのですが、仲間たちとともに楽しく、笑いながら生活が出来るよう、そして頼れるような存在になりたいと思っています。

このことは今年だけのことではなく、自分への課題と考え、意識して仲間と一緒に過ごしていけたらと思っています。



なでしこホーム  
上野 由香

私は、今年「年女」です。今はフラットという作業所と、なでしこホームと寺下病院のリハビリに行っています。フラットでは、蓄光シールの封入やタオルの検品などやっています。蓄光シールをつけるのは好きですが、それをビニール袋に入れるときに袋が破れてしまったりますので、苦手です。

などの市民の力が私たちの運動を応援してくれるという40年前にはなかった状況があります。

一方、世界的な流れの中で「障害者差別解消法」の成立、

「障害者権利条約」の批准など私たちが後押しする法律が整備されてきています。そして、私たちの願いを実現するための障害や願いの違いなど団体の壁を越えて48団体が手をつなぐ和歌山障害者フォーラム(WDF)が結成され活動を始めています。私たちはこの40年間だけでも多くの人と手をつなぎ、地域で支援する仕組みを地道につくりあげ、誰もが住みよいまちづくりへと広げてきた実績があります。

こうしたことを私たちの宝として広げ、声をあげ行動することがますます必要となってきています。「困難」は何をすべきかを明らかにします。力は限られています。少しでも地域の福祉の課題にたいして役立つように努力していきます。

今後とも麦の郷とともに歩んでいただけるようにお願ひ申し上げます。皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。



なでしこホームでは、お話が出来る人がいっぱいふえて楽しいです。

年女になったのだから、やりたい事をいっぱい挑戦したいです。

★旅行に行きたい

★かわいいイラストをいっぱい描きたい

★フラットでもっと儲けたい

★おいしいご飯やケーキを食べたい。でも、ダイエットもしたい。とにかく今年だから、いろいろと駆け抜ける年にしたい!



麦の郷印刷  
水澤 克己

私は、七年前に長野から和歌山へ引っ越してきました。来た当初は不安でいっぱいでしたが、親切な人たちに会い助かりました。

これからは、この人たちのためにも頑張っていきたいと思っています。



麦の郷印刷  
宮田 浩一

麦の郷印刷で、お世話になって早いもので4カ月がたちました。今、週3日の午前中作業をして楽しくやっています。今年の目標は、現状よりステップアップ出来ればと思っています。

いつも支えて下さっている周りの方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。今年もよろしくお願ひします。



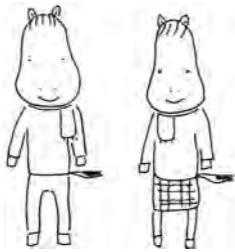
# 今こそ！人の輪を紡いで

麦の郷の理念の一つに、「麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます」と、謳っています。今般の社会情勢は、「平和」「命」の尊さをみなさんと共に真剣に考えざるを得ない状況にあります。昨年12月6日の夜、参議院本会議で特定秘密保護法案が反対する多くの国民の声は無視され強行採決・可決されました。これにより、国民の「知る権利」は奪われ、日米同盟がより強化され、人の命を殺めることのできる国づくりへと進もうとしています。「平和な日本なんだからそんなオーバーな捉え方せんでも大丈夫よ」との声も聞かれますが、平和な日本だからこそ危ないし、わが子のために大人たちがもつとしっかりと平和を守るために手をつなぐ必要があるのではないのでしょうか？

現政権は、強い国づくりや強い財政基盤づくりを進めるため、昨年末の臨時国会では、医療費・介護・福祉・労働分野における施策の後退につながる社会保障プログラム法案を成立させました。重い病気で苦しむ人や高齢者、生活困窮者、非正規労働者の生活や命をより一層脅かす事態が起きることが予測されます。私たち障害福祉においても同様のことが考えられます。同臨時国会にて障害者権利条約が承認され、条約発効から5年余りで日本の批准が実現しました。その一方で、官僚主導での障害基礎年金の引き下げ、第3次障害者基本計画、障害支援区分の見直し等、自立支援法訴訟で勝ち取った「基本合意文書」や当事者の声が反映した「骨格提言」と乖離する施策が示されています。

## 研修会アンケートより

- ◎意見交流で各事業所の行っていることを学ぶことができよかったです。理念、仲間を信じて行っていくということは、この事業所も同じなんだと改めて感じました。
- ◎日々の実践に疲れたり、目標を見失ったり、どうしていいかわからない時に、プランを開いてみるというのが、目からウロコでした。
- ◎このようなあつまりは、他の事業への理解を深め、麦の郷の理念を理解することができるので、良い取り組みだと思います。
- ◎各事業所の目標とすることろが、よく見えてわかりやすかったです。共感してこそ、心から応援できると思います。



## 第13弾 『障害者週間 広がれネットワーク』

紀の川・岩出生活支援センター

今年も那賀圏域にて障害者福祉施設・家族・当事者・地域の方々が集まり「障害のある人が地域で豊かな生活ができる社会を実現するために」という主旨で5つのイベントが開催されま

日本が批准した障害者権利条約は、障害者総合支援法や障害者差別解消法などの実体法の上に位置し、国連への会議の参加や批准後2年毎の報告書提出など大きな意味を持ちます。また、裁判での根拠法となり、私たちの要求運動の更なる発展につながります。条文の中に「他の者との平等」という言葉が何度も登場しています。決して特別な権利、贅沢な暮らしを望んでいるのではなく、障害のない同じ年齢の人と同水準の暮らしをしたいだけなのです。という願いや主張を実現するために、多くの地域住民のみなさんと人の輪を紡いでいきます。



## 仲間の実践から学び、語り合う研修会を開催

研修会 元気になる!!実践をとおして 「主体的な学び」を 第2弾

- 11月30日(土) 13時30分～14時30分
- 和歌山市北コミュニティセンター
- 参加者63名

法人内の事業所から実践発表をとおして経験から学ぶとともに、ワークショップの手法により、受身ではない意見交換で「私たちがめざす視点」を深め合うことを目的に研修会を開催しました。

第一部「笑顔と元気 おぎの郷プランを推進するために」では、おぎの郷プラン委員会池上

した。

12月4日は岩出・山崎・上岩出地域福祉協議会 障害部会主催による「個性?特性?発達障害!?自分らしく生きるって」をテーマに出来麻有子さんの講演が開催され55名の方が集まりました。発達障害の子どもをもつ親であり支援者でもある出来さんから、発達障害について丁寧に伝えていただき、地域の参加者からは「とてもわかりやすい、いいお話が聞けた」と好評でした。

12月5日は、みんなの願いを語る会主催による「うちの子最高 わが家のスペシャルショット」と題し22名の保護者の方が障害をもつわが子の写真を持ち寄りスライドショーが開催されました。わが子と共に生きてきたこれまでの日々を改めて振り返り、笑いあり涙あり：愛情に溢れた山崎邸となり、同じ立場の人たちが出会って語り合う場所、その大切さを実感したひと時でした。

12月6日は、精神障害者家族学習会・那賀圏域精神障害者自立支援ネットワーク主催による「紀の川病院

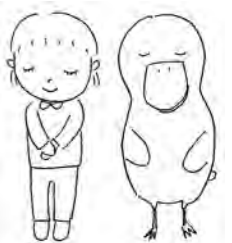
ひきこもり ショートケア 開設記念パネルディスカッション ひきこもりの解決は仲間の手で」と題し紀の川病院副院長 宮西照夫さんの講演が開催されまし



「うちの子最高 わが家のスペシャルショット」 みんなの願いを語る会 (創 - HAJIME - Cafeにて)

二又巴委員長より、おぎの郷プランの歴史や意義について、簡潔明瞭な報告がありました。第2部は、「実践報告とワークショップ交流」です。

おぎの郷(鈴木悦子さん) けいじん舎(中原力哉さん) はぐるまう・テール(湊翔平さん) より、3テーマへおぎの郷プランでめざしていること・現在の事業内容・課題の内容で実践報告がありました。その後参加者全員が6グループに分かれて、ワークショップで深め合いました。普段は各事業所で頑張る職員が集まり学び交流することで、それぞれに「気づきと元気」を持ちかえる研修になりました。(島)



た。メンタルサポーターという集団の中でリーダー的な役割を担う当事者を置くことで、メンバーが個々の課題を相互に解決していく姿が紹介されました。



「パステルアート体験」 なんでもご自慢ってん展 (打田生涯学習センター)

12月10日は、福祉施設等職員研修会「障害者虐待フォーラム 明日へのよりよい支援のために」と題し行政の立場から福井保司さん、現場の立場から和田聖子さん、臨床心理士の深谷薫さんによる講演が開催され96名の方が集まりました。忙しい職場の中で障害のある人と接している自分自身が言葉などにおいて心理的虐待をしていないかと振り返るいい機会となりました。

最終は「広がれアートプロジェクト」なんでもご自慢ってん展」と題し、障害がある人たちが作業所や自宅で制作した自慢のアート作品の展示・体験が12月13・14日と2日間にわたり開催されました。自由で個性豊かな作品で彩られた会場は温かい優しい空気が流れていました。

当事者・家族・施設・地域の視点から企画された会は、共感しあい理解を深めていくための大事な場として位置づいており、今後ますますの地域の方々に根付いていけばと思つた取り組みでした。「もつと広がれネットワーク」

(吉田)



### クリスマス会

こじか園

12月18日にこじか園でクリスマス会を行いました。

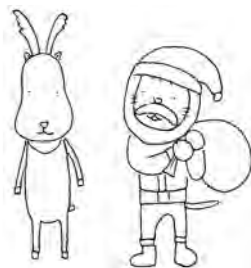
玄関を入ると子ども達が作った作品や飾りがたくさん飾られており、いつもと違う雰囲気だ。登園時から少しそわそわとした様子の子もたちでしたが、いざ始まってみるとなんのその、それぞれ楽しむ姿が見られました。

演奏会では「ベルリンガーズ・もみの木」さんに来ていただき、ハンドベルの素敵な演奏を聴いたり、ベルの音を肌で感じてさせてもらったりして、子どもたちだけでなく大人も充実した時間を過ごすことができました。

年中、年長組のシャッフルグループで行ったティーパーティーでは、クッキーを食べたりジュースを飲んでいたりして、いつもはあまり話さないお友達とも楽しい時間を過ごしたり、お友達が美味しそ



うに食べている姿を見て、いつもは食べないお菓子にも挑戦してみようとする子もいました。5歳児さんの楽器演奏もあり、みんなの見ている中で緊張した様子も見られましたが、最後には「凄いでしょ!」と言うように素敵な笑顔で演奏していました。そして、いよいよお待ち兼ねのサンタクロースが登場!子ども達の目がきらりと光り、一人一人プレゼントを貰うことも嬉しそうにしていました。去り際に一人一人握手をしてもらい「ありがとう」とサンタさんを見送る子どもたちの手にはしっかりとプレゼントがにぎられていました。



(林)

### 恒例!秋の一泊旅行

in 愛知・三重

はるくま和の杜

和の杜の仲間が自治会がかねてより企画してきた恒例の秋の一泊旅行に11月8日〜9日の二日間行ってきました。今年の行き先は愛知県方面という事で朝の7時半には全員が貸し切りバスに乗って片道4時間の旅がスタートしました。

まず向かったのが名古屋松阪屋、くしくも旅行前日に食品偽装の報道がなされ微妙な空気が流れる中なんて松阪屋なんだ!そう名古屋松阪

乗り物チーム「園内ブラブラチーム」の3組に分かれてバス出発のギリギリの時間まで楽しんできました。なかでもギネス級絶叫マシン「スチールドラゴン」を制覇した勇者4名には帰路のバスの中で商品の贈呈を行いその栄誉をたたえました。(うっくん、確かにすごいジェットコースターでした)

再び4時間のバスの旅を終え無事歌山へと到着した時点で自治会長のご挨拶。「月曜からまた仕事です!がんばりましょう!!」バスの中全員が一気に現実に戻されたのでした。

(大中)

### 伝説が:

ソーシャルファームピネル

10月19・20日の土日です。ソーシャルファームピネル恒例の一泊旅行に行ってきました。しかし:天候が最悪!長年続いてきたクリーニング部の旅行に傘は



12月15日(日)なでしこホームにて、「麦の芽」 「ぎずな」 「なでしこ」グループホーム合同のクリスマスパーティーを20名の参加で開催しました。女子有志による「ラーメン体操」の披露(その楽しさに2回目は、参加者全員が踊りました)や、ホームぎずなの仲間によるギター&唄で、にぎやかなオープニングのあと、乾杯をしてクリスマスケーキをいただきました。

### 3グループ合同

クリスマスパーティー

した。とんでもない大雨。警報まで出ていたため伊勢神宮の20年に1度の式年遷宮どころじゃありませんでした。傘をさしてもびしょびしょ。そのため希望者のみ神宮へお参りに行った次第です。翌週の26・27日はともに快晴ということで、見事はずしてしまいました。しかし、メンバーみんなが旅行に行くことを楽しみにしていた分、宴会等楽しんでもらえたので、それはよかったです。来年こそは好天にめぐまれた旅行に行きたいと思えます。

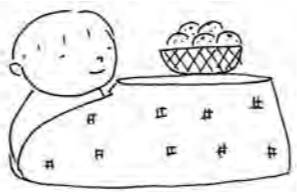
(田村)



屋には「ポケモンセンター」があるのです。「大阪にもあるやん」っていった細かいことは言いつこ無し:。和の杜のみんは名古屋のポケモンセンターに行きたかったんですから。ポケモンチームとデパ地下チームに分かれて散策の後、昼食として和の杜の旅行で欠かせない「当地グルメミッション」の開始となりました。「味噌煮込みうどん」「味噌カツ」「手羽先」「普通のレストラン」にそれぞれ分かれコテコテの名古屋の味を堪能した後はパチリ。再びバスに乗り込んだ一行が向かったのが今回の旅行で最も得票数が多かった「JRリニア鉄道館」。新旧の新幹線や昭和の匂い漂うレトロな電車から夢の時速500キロのリニアまで「にわか鉄ちゃん」にも十分満足なスケールのでっかい博物館でした。



お楽しみメインは、昨年引き続きボランティアで参加して下さった「たつきいさん(和歌山大学大学院生)」のマジックショーです。プロ並みのマジックに、参加者みんなは、ドキドキしたり大笑いしたり、感動の連続でした。2年連続で参加して下さいました「たつきいさん」本当にありがとうございました。



最後は、ビンゴゲームによるプレゼント交換をしました。なかなかビンゴにならず、心配顔の人もいましたが最後は全員がビンゴとなり、それぞれにプレゼントをもらい満面の笑顔でした。ちなみにプレゼントは、100円均一限定ですが、みんな素敵なプレゼントを選んでいました。複数のホームのみんなが集まり、趣向を凝らして楽しい時間をもつことは、大切な思い出づくりにつながっていると思います。

(島)





